

主題：三一の神が三部分から成る人に命となる

メッセージ 12

神聖な命の交わりの中で生きる

聖書：Ⅰヨハネ 1:2-7,9

- I. わたしたちは神聖な命の交わりの垂直の面と水平の面へと入る必要があります：
- A. 交わりとは、すべての信者の内側にある永遠の命の流れです。彼らは、神聖な命をすでに受けて所有しています。これは新エルサレムにおける命の水の川の流れによって描写されます——啓 22:1。
- B. Ⅰヨハネ第 1 章 2 節から 3 節と 6 節から 7 節は、神聖な命の交わりに垂直の面と水平の面の両方があることを啓示しています：
1. Ⅰヨハネ第 1 章 2 節から 3 節は言います、「(この命が現れました。わたしたちはこの永遠の命を見たので、あなたがたに証しをし、また伝えています。この永遠の命は御父と共にいましたが、わたしたちに現れたのです)。わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも伝えます。それは、あなたがたもわたしたちと交わりを持つためです。わたしたちの交わりとは、御父との、また御子イエス・キリストとの交わりのことです」：
 - a. 交わりの垂直の面は、わたしたちと三一の神との交わりを指しています。交わりの水平の面は、わたしたちの互いの交わりを指しています。
 - b. 使徒たちの初めの経験は垂直のものでしたが、使徒たちが永遠の命を他の人に伝えたとき、彼らは神聖な交わりの水平の面を経験しました。
 2. 6 節は言います、「もし、わたしたちが神と交わりを持っていると言いながら、暗やみの中を歩いているなら、わたしたちは偽っているのであって、真理を実行していません」。これは交わりの垂直の面です。
 3. 7 節は言います、「しかし、神が光の中におられるように、わたしたちが光の中を歩くなら、わたしたちは互いに交わりを持ち」。これは交わりの水平の面です。
- C. わたしたちは神聖な交わりの垂直の面と水平の面との間の関係を見る必要があります：
1. もしあなたが主と正しい交わりを持っていないなら、あなたの信者仲間と交わりを持つことは難しいのです。同じように、もしあなたが信者仲間と正しい交わりを持っていないなら、主と交わりを持つことは難しいのです。この理由は、神聖な交わりが唯一の交わりであるからです——使徒 2:42。
 2. わたしたちは実際的にこの交わりの中にいないとき、その霊の外におり、三一の神の外におり、神聖な命の外にいます——参照、Ⅱコリント 13:14。Ⅰコリント 1:9。ピリピ 2:1。
 3. わたしたちはできるだけ多く、わたしたちの信者仲間と交わりを持つべきです。この神聖な交わりはわたしたちを矯正するだけではありません。

それはまたわたしたちを型で作り、再構成さえします。この交わりは神聖な構成要素をわたしたちの霊的な存在の中へともたらし、わたしたちの存在の中で変化を持たせます。

4. 交わりはまた、ある共通の目的のために、個人的な利益を捨て、他の人と結合することを示します。ですから、神聖な交わりの中で生きることは、神の定められた御旨を完成するために、わたしたちの個人的な利益をわきに置き、使徒たちまた三一の神と結合することです——使徒 2:42. I ヨハネ 1:3. I コリント 1:9. 3:6, 12。

D. 神聖な交わりは、キリストのからだの中で生きることの実際です：

1. 主がまだ戻って来ないのは（啓 22:20）、信者たちが個人主義的で、単独で、意見があり、分裂しているからです。
2. 神聖な交わりの中に制限されることによってキリストのからだは、一の中に守られ、その務めの働きは継続して前進します。すべてのものを生かすのは交わりです——エペソ 4:11-12. 参照、エゼキエル 47:9。

E. 命の交わり、命の内なる流れは、喜びをもたらし、また命の光の内なる照らし、すなわち内なる支配をもたらします——I ヨハネ 1:4-5. ヨハネ 1:4. 8:12. 参照、II コリント 5:13。

II. わたしたちは二つの霊によって、神聖な交わりの二つの面へと入る必要があります：

A. わたしたちは神聖な霊、聖霊によって、神聖な交わりの垂直の面へと入る必要があります——II コリント 13:14. II テモテ 4:22：

1. その霊ご自身が交わりです。なぜなら、交わりはその霊の流れであるからです。これは、電流が電気そのものであると言うようなものです。電流は流れている電気です。
2. 同じように、II コリント第 13 章 14 節で述べられている聖霊の交わりは、その霊の運行です。キリストの恵みはわたしたちが享受するキリストご自身であり、神の愛はわたしたちが味わう神ご自身であり、その霊の交わりはわたしたちの内側で運行するその霊ご自身です。

B. わたしたちは人の霊によって、神聖な交わりの水平の面へと入る必要があります——ピリピ 2:1. 啓 1:10：

1. わたしたちは互いに真の水平の交わりを持つようとするなら、わたしたちの霊を訓練する必要があります——I テモテ 4:7。
2. わたしたちは霊を訓練するなら、世俗的な方法で話したり、聖徒たちや召会について消極的に語ったり、他の人の間違いや失敗についてうわさ話をしたりすることは決してありません。わたしたちが霊を訓練するとき、わたしたちの会話の性質は変わります。なぜなら、わたしたちの霊は聖いからです——II コリント 6:6。

C. 水平の交わりは垂直の交わりに織り込まれます。この織り込まれた交わりが真の交わりです：

1. わたしたちは霊を訓練することによって互いに真に交わるとき、祈り、主と接触することを渴望します。これは、垂直と水平の面の交わりの間の関係が、いかに密接であるかを見せています。
 2. わたしたちと聖徒たちとの水平の交わりは、わたしたちを主との垂直の交わりへともたらしめます。そしてわたしたちと主との垂直の交わりは、わたしたちを聖徒たちとの水平の交わりへともたらしめます。
- D. 神聖な交わりはクリスチャン生活のすべてです：
1. 電流が電気そのものであるように、神聖な命の交わり、神聖な命の流れは、神聖な命そのものです。
 2. わたしたちのクリスチャン生活は神聖な命の交わりの生活です。
 3. 使徒たちは信者たちと交わりを持つことを願いました——これは水平の交わりです。そして使徒たちは、その交わりが三一の神との交わりであると説明しました——これは垂直の交わりです。
 4. わたしたちは垂直に主と交わり合っており、同時に水平に互いに交わり合っているべきです。
 5. 最後に、この神聖な交わりの中で、神はわたしたちと織り込まれます。このように織り込まれることは神と人とのミングリングです。
 6. わたしたちは、交わりがないとき、神も消えることを認識しなければなりません。神は交わりとして来ます。

Ⅲ. わたしたちの交わりは十字架を通して深められます：

- A. 全宇宙に、神とわたしたちとの間のすべての障害を取り除くただ一つのものがあります。それは十字架です。
- B. 詩歌 533 番 6 節は言います、「十字架の働きを通して、交わりはさらに深くなります。聖霊の運行を通して、交わりはさらに新しくされます」。その霊と十字架がなければ、わたしたちは真の交わりを持つことができません。
- C. 詩歌 227 番の第一句は言います、「後にあるのは塗り油であり、先にあるのは血です」：
1. 血は十字架の有力なしるしであり、塗り油はすべてを含む、複合の霊の予表です。
 2. この二つの要素はレビ第 14 章 6 節から 10 節と 14 節から 18 節で述べられています。御言のこの箇所では、汚れた罪人を表徴するらい病の人が、まず血によって清められ、次に血の基礎の上に油、塗り油が塗られることが告げられています：
 - a. 血と塗り油は、らい病の人の右の耳たぶ、右手の親指、右足の親指に塗られます。耳はわたしたちが神の言葉を聞くことを表徴し、手はわたしたちが神の事柄を行なうことを表徴し、足はわたしたちが神の道を歩むことを表徴します。
 - b. 霊的に言って、らい病は間違っただけで聞くこと、間違っただけで働くこと、間違っただけで歩むことから成っています。わたしたちはらい病の人であるので、まずキ

リストの贖う血によって清められる必要があり、次に血の上に塗る油を必要とします。

c. 最終的に、わたしたちの清めは、キリストの清める血に基づいたその霊の神聖な交わりによります。

D. 神聖な交わりは、三一の神をわたしたち、三部分から成る人の中へと分与して、わたしたちと神を一にすることです。「交わり」のギリシャ語の言葉は「共にあずかること」を意味し、この共にあずかることは一を生み出します：

1. 実は、交わりとは一です。神がわたしたちと交わっているとき、そしてわたしたちが神と交わっているとき、それが神とわたしたちを一にします。
2. 全宇宙に大きな一があり、この大きな一が神聖な交わりです。
3. 主が願っているのは、父、子、霊が一であるように、わたしたちをすべて一にすることです。ヨハネ第 17 章で主は祈りました、「それは、わたしたちが一であるように、彼らも一となるためです」(22 節後半)。召会の一は神聖な三一の神聖な一の一部です (21 節前半)。
4. 最終的に、召会と神聖な三一は交わりの中で一です—— 14:21, 23。

E. わたしたちは十字架を経験して、徹底的に神聖な交わりの中にいなければなりません：

1. わたしたちの内側に他の兄弟に対する障害があるので、わたしたちと彼との交わりはそれほど徹底的ではありません。わたしたちは神聖な交わりに対する内側の障害のゆえに、ある聖徒たちと接触するのを避けるかもしれません。
2. わたしたちの交わりが徹底的でなく、障害が内側に残っているのは、わたしたちが経験の中で十字架を持っていないからです——ガラテヤ 2:20 前半。
3. 詩歌 464 番は、「死ぬことがなければ、生きることはありません」と言います。これが意味するのは、「十字架がなければ、キリストはありません」。さらに、「キリストがなければ、その霊はありません。その霊がなければ、交わりはありません」。
4. マタイ第 16 章 24 節で主は言われました、「だれでもわたしについて来たいなら、自分を否み、自分の十字架を負い、わたしに従って来なさい」。主は「自分の十字架」という言葉を用いて、わたしたち各自に特別な分の十字架があり、それはわたしたち各自が断ち切られるためであることを示しました。
5. 実は、十字架を負うとは自己を否み、自己を死に渡し、絶えずキリストの十字架を自己に適用することです。
6. わたしたちは水平の交わりを持つために、自分自身を否む必要があります。自分自身を否むとは、自分自身について感覚がないことを意味します。その時、わたしたちは決して怒ることができません。
7. わたしたちは十字架を経験して、神聖な交わりに対するわたしたちの経験を深める必要があります——参照、I ヨハネ 1:9。